

八戸市におけるESTモデル事業と その”向こう側”



©Yoshiko Yamamoto 2005

八 戸 市

環境政策に対するスタンス

「環境先進都市」の実現をめざして

環境への負荷の少ない持続的に発展することができる
環境先進都市八戸をつくりあげていくため、
「八戸市環境基本条例」を制定（平成16年12月）

ところで、運輸部門の環境対策は？

モータリゼーションの進展 **10年間で2割増！**

市内自動車登録台数 H7: 15.1万台 → H17: 17.8万台

乗合バスの利用者数減少 **10年間で4割減！**

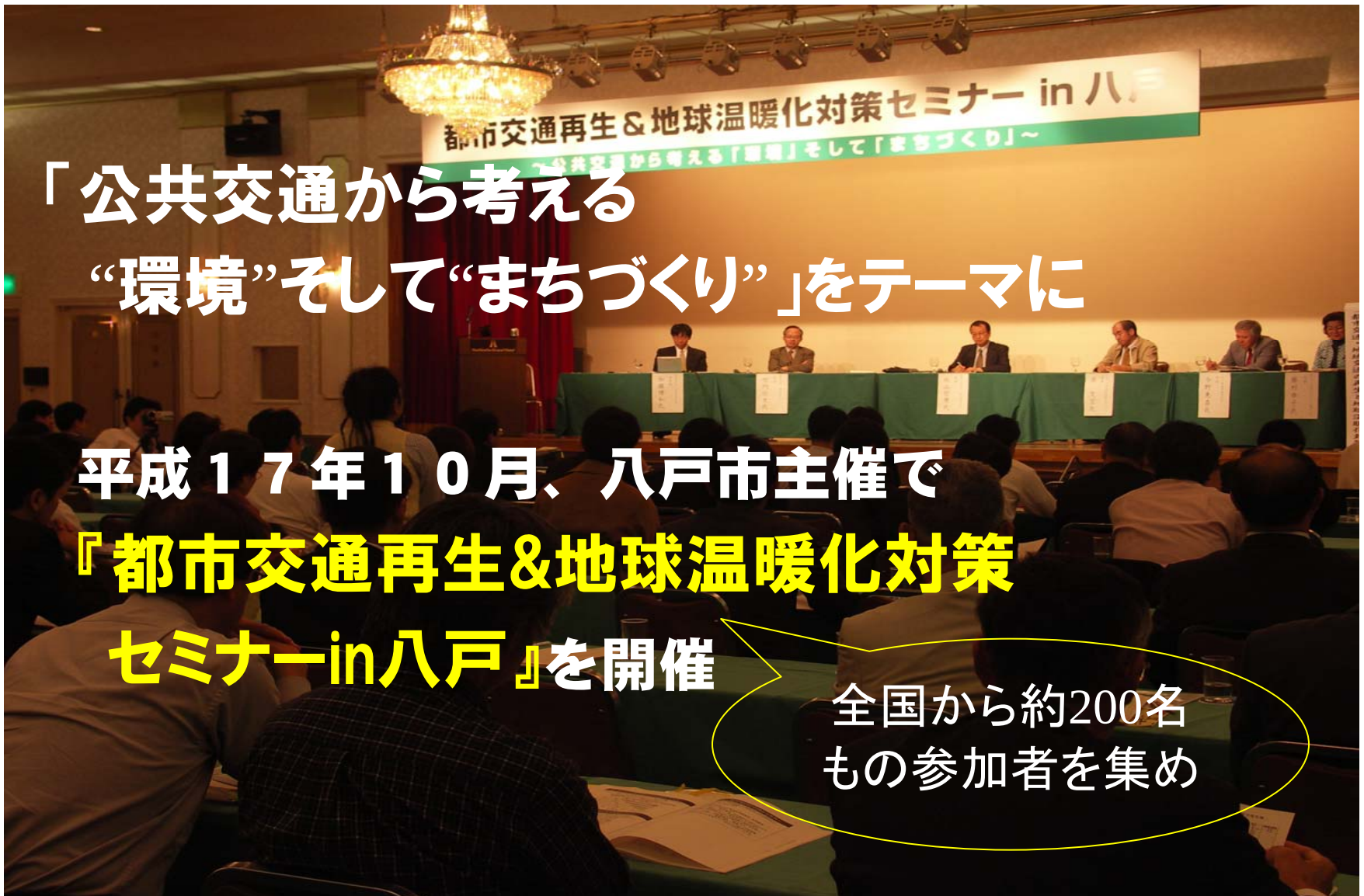
市営バス輸送人員 H7: 1410万人 → H17: 832万人

“プレ” E S Tモデル事業として

「公共交通から考える
“環境”そして“まちづくり”」をテーマに

平成17年10月、八戸市主催で
『都市交通再生&地球温暖化対策
セミナーin八戸』を開催

全国から約200名
もの参加者を集め



そして、ESTモデル事業へ

- ・国土交通省環境行動計画モデル事業（EST部門）に応募
- ・平成17年12月、地域選定を受ける（東北地方で2番目）

◎テーマ：

「環境先進都市～八戸」の理念に相応しい環境的に持続可能な交通（EST）への転換

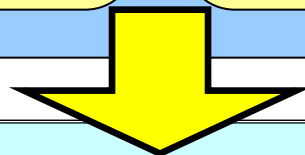
◎事業実施期間：

平成18年度～平成20年度

八戸市におけるE S Tモデル事業の枠組

公共交通の再編・再構築と
バスサービス向上策の推進

道路環境の改善等による
総合的な交通環境の整備



公共交通への利用転換促進・
渋滞緩和等により環境負荷を低減

国・県・市・交通事業者・NPO等
多様な主体の取り組み・連携により
八戸市地域のE S Tへの転換をめざす

施策の構成

八戸市地域E S Tモデル事業～4つの柱～

公共交通体系の
再編・再構築

環境的に持続可能な
交通モデルの検討
・ 周知啓発

バスを活用した
関連施策

環境とひとにやさしい
「みちづくり」

国・県・市・交通事業者・NPO等
多様な主体の取り組み・連携

施策①

公共交通体系の再編・再構築

施策の内容	事業主体
南浜地区・美保野地区生活交通再編モデルの検討(公共交通活性化総合プログラム)	国土交通省、 八戸市
南郷コミュニティ交通事業の再編	八戸市
公共交通再生プラン策定事業	八戸市
路線の移管・再編による運行効率化	八戸市、 八戸市交通部

施策②

環境的に持続可能な交通モデルの 検討・周知啓発

施策の内容	事業主体
トランジットモール導入の検討継続	八戸市
広報、CATV、各種イベント等の活用による周知啓発	環境省、 八戸市

施策③

バスを活用した関連施策

施策の内容	事業主体
低公害バス(新長期規制適合バス)の導入	八戸市交通部
環境定期券、こども探検エコパスポートの発行	八戸市交通部
新バスロケーションシステムの導入	八戸市交通部
ITSサービスの利用促進	八戸市交通部、 NPO青森ITSクラブ
種差海岸遊覧バス「ワンコインバス・うみねこ号」 運行事業	八戸市、 八戸市交通部
日曜朝市循環バス「ワンコインバス・いさば号」 運行事業	八戸市、 八戸市交通部

施策④

環境とひとにやさしい「みちづくり」

施策の内容	事業主体
国道45号八戸南道路の一部区間暫定供用開始	国土交通省
国道45号八戸バイパス(新井田～妙)の4車線化	国土交通省
県道八戸野辺地線の道路改良事業	青森県
歩道整備(くらしのみちゾーン形成事業など)	八戸市ほか

主な取り組み その1

南郷コミュニティ交通事業（八戸市南郷区）



平成17年10月から実施のコミュニティバス事業について、平成19年1月から再編

①南郷コミュニティバス

区内の通院需要に配慮し、昼間の診療所経由の便は、系統・ダイヤを見直し、バス車両による路線定期運行を維持



②南郷コミュニティタクシー

利用が低調（平均約1人/便）であった廃止バス路線の代替便を廃し、朝夕のデマンド型乗合タクシーを導入

EST的効果

①バス車両による運行の効率化

②デマンド化に伴う「空」バス運行の排除

⇒ 需要を集約しつつ環境への負担も軽減！

主な取り組み その2

こども探検エコパスポート (八戸市交通部)



- ・平成19年7月から小学生を対象に販売(1枚100円)

- ・夏/冬/春の休み期間中、市営バス全路線を1日乗り放題

- ・販売実績

H19年7～12月:1766枚

H20年4～8月:1337枚

目的

次代を担う小学生にバスに乗る楽しさや便利さを知ってもらう
⇒ マイカーに過度に依存しない「環境にやさしい交通」をアピール

主な取り組み その3

CATV(八戸テレビ放送)による周知啓発事業



平成19年8月には「エコレンジャー」が
「こども探検エコパスポート」をPR

- ・平成19年2月に環境省事業で受託NPOがESTをテーマにした番組『市民・環境にやさしいバス』を制作・放映

- ・市企画番組『エコレンジャーとエコな仲間たち』でも、「環境にやさしい交通」を話題に



八戸市における路線バスの実態

「総花的だけど“華”がない」by名古屋大学加藤准教授

●全系統の3/4が不採算系統

- ⇒ 民営路線の大半が国・県・沿線市町村により欠損補助
- ⇒ 市営路線には一般会計から5.5億円(H19)の繰入補助

事業者の企業努力には限界。だが市の財政も・・・

●市内居住地の90%超がバス停から半径500m以内でカバーされているが、複雑な系統になっている

- ⇒ 利用者にとって目的地や経由地がわかりにくい
- ⇒ 幹線区間でほぼ同時刻に複数の便が運行されるなど、過剰に運行されている

「集中と選択」・・・便利にみせる工夫が必要

主な取り組み その4

八戸市公共交通再生プラン策定事業

- ・平成18年9月、策定委員会を設置

⇒平成19年3月、プランを策定

- ・乗合公共交通の持続可能な供給により、市民の移動を適切に確保するため、2つの「戦略」を設定

【戦略1】 バス路線網の幹線軸を設定し、
サービスの充実と運行の効率化を図る

【戦略2】 市民のモビリティ（移動のしやすさ）
を持続的に確保する仕組みをつくる

主な取り組み その4

八戸市公共交通再生プラン策定事業

- ・「2つの戦略」を実行に移すため、喫緊に取り組むべき
具体の施策を3つの「アクションプラン」として設定

- (1) 八戸駅線の共同運行化
- (2) 地域公共交通会議の設置
- (3) 地域協働型公共交通システムの導入促進

【アクションプランの実施状況】

- ・平成19年6月、八戸市地域公共交通会議設置
- ・(平成19年度での関係事業者との協議を経て)
平成20年4月、八戸駅線の共同運行化実現 ⇒ 詳細は次頁

八戸駅線共同運行化プロジェクト

「競合」から「共生」へ

東北新幹線
八戸駅



キロ程
約6～7km



八戸市
中心街

Before (H19)

- ・各事業者がバラバラに
系統・ダイヤを編成
- ・平日228便の運行本数

After (H20)

- ・2社2経路のダイヤを平準化
(10分間隔のヘッドダイヤに)
- ・平日182便(▲46便)に

利便性を高めつつ 仕業的にも環境的にも **“reduce”**

環境的に持続可能になるには 地方財政が厳しい中で・・・

◎公共交通事業者の体力そのものが「持続」しないと、
環境的にも「持続」できないのでは？

⇒地方のバス会社は新車購入もままならぬ現実

⇒リストラが進み改善策を練る人的余裕がないのも事実

◎LRT導入など羨ましい話だけれど・・・

⇒中小自治体・・・新規の財政投入には高いハードル

⇒むしろ今走っている路線バスをいかに「元気」にさせるか

◎EST・・・市民レベルでの意識啓発もさることながら、
「協働型」公共交通の仕組みづくりも必要

⇒従来型の欠損補助や行政委託の代替バスで十分か？

⇒地域の意思決定をどう吸い上げるか？

さらに根源的な課題とは

そもそも・・・

我が八戸市もそうですが

公共交通対策、殊に運輸部門の環境対策を多くの
地方自治体が固有の業務として認識しているか？

⇒ 専門のノウハウ・スタッフを持たない現実

・・・正直、自信がもてない改善効果数値の目標設定・実績検証

公共交通対策は、地方自治制度や地方財政制度
において「普遍的なもの」とみなされているか？

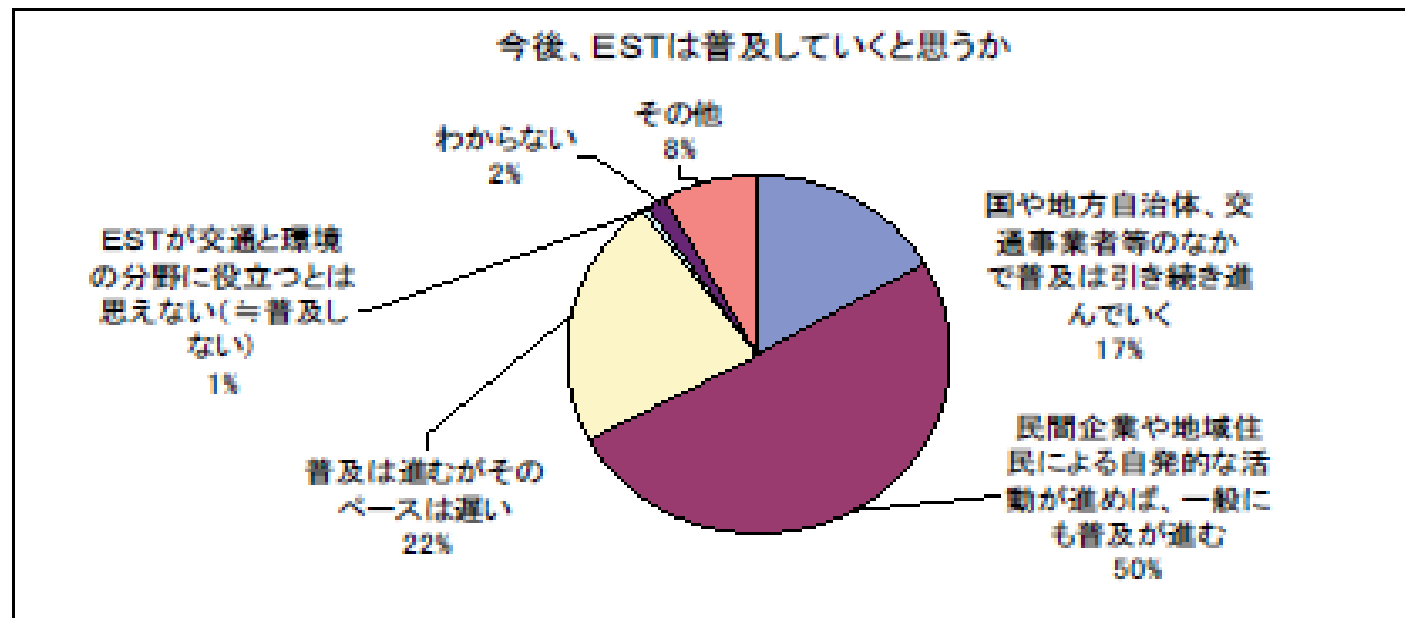
⇒ 路線維持補助や低公害バス購入費に対する特別交付税は
制度化されているけれど・・・バス対策は特殊な財政需要？

⇒ 補助金・交付税＝必ずしも財政・人事を説得する材料とならない
・・・首長の特命でもない限り、ダイナミズムを発揮できない？

ESTモデル事業が、地球温暖化対策という視点にとどまらず、
地方自治における交通・環境に対する考え方を問う契機となれば！

もっとも、**真**のEST普及推進には 民間企業や地域住民の自発的活動こそ 不可欠な要素では？

Q 3 今後、ESTは普及していくと思いますか？



- ・ 民間企業や地域住民による自発的な活動が進めば、一般的に普及が進むという回答が多かった。

第1回EST普及推進フォーラムのアンケート結果より

事業最終年度を迎えた八戸にて “ポスト” E S Tモデル事業のヒントが？

- 市民とともに考える八戸バスマップ作成プロジェクト
- 三春屋 & 南部バス「日曜ecoキャンペーン」
- エコ・モビリティ研究会「STi LE」

キーワードは、
民間・地域オリジナルの「モビリティ・マネジメント」？

平成20年度公共交通活性化総合プログラム(東北運輸局)

市民とともに考える 八戸バスマップ作成プロジェクト

- ・複雑多岐な3社のバス路線を地図上に一本化しバス利用促進のツールに。
- ・あらゆる利用者にとって「わかりやすく・つかいやすい」バスマップの作成に向け市民(NPO・市民活動団体・バス愛好家)の意見も取り入れ、目下検討中。



バス路線は、いわば「生き物」・・・

故に、常に情報を管理し、マップの有効活用を図るための「持続可能」な運営手法の議論も不可欠

中心街百貨店とバス事業者とのコラボレーション 三春屋 & 南部バス「日曜ecoキャンペーン」 (サンエコ)

Miharuya この街と人々を繋ぐ店

日曜日はバスに乗って、マイバッグでお買物を!!
公共交通利用促進 + レジ袋削減

三春屋 & 南部バス 日曜eco キャンペーン

実施日 6/22回・29回・7/6回・13回・20回・27回
6日間限定

三春屋 食品館 300円割引券

割引券利用方法及び特典
実施日に割引券とマイエコバッグ(お買物袋)をご持参いただき、三春屋食品館にて1回のお会計で3,000円以上お買い上げいただくと300円の割引が受けられます。さらに通常どおりエコスタンプ1個も進呈いたします。

対象バス停留所
図の9か所のバス停留所にて(8時～17時)降車された方が対象です。

割引対象商品
三春屋食品館の商品(たばこ・ギフト券・送料などの一部指定商品を除く)

割引券の配布対象者
実施日に当バスへご乗車になり、上記の中心街対象バス停留所にて降車された方が対象となります。

割引券の配布方法
バスの乗降入口付近に割引券を備えており、また、対象バス停留所にて乗車の際にお乗車のご案内券(乗車券)1枚ずつお配りいたします。

〒031-8533 八戸市十三日町13番0178(24)7111(代) 営業時間/2F～5F 午前10:00～午後7:30 1F-BF 午前10:00～午後8:00

- (株)中合 三春屋店の発案で、平成20年6月～7月の毎週日曜日に実施
- 中心街のバス停(9ヶ所)を降り、かつマイバック持参客への割引特典
- 三春屋食品館にて3000円以上の購入で、300円の割引

目 的

百貨店業界におけるエコ対策の
取り組みの盛り上がりを背景に
公共交通利用促進・レジ袋削減

キャンペーンの課題など

南部バス

- ・割引券の配布に係る乗務員の負担をいかに軽減するか

三春屋

- ・割引率もしくは割引以外の方法をどう考えるか



所感 (三春屋担当課長の談)

- ・ 対外的(商工会議所や百貨店業界)には反響があった
- ・ 目標には届かなかったが、利用者には概ね好評だった
- ・ 他の公共交通機関(JR・市営バス・十鉄バス)や中心商店街全体に呼びかける必要性を認識

環境に優しい交通ライフスタイルを提唱・実践する市民活動団体

エコ・モビリティ研究会 STiLE

「STiLE」とは、

Smart

Trips

in

Lifestyle

for

Ecology

という略語で「ロハス
(LOHAS)」の交通版と
いうイメージ。八戸工業
大学武山教授が命名。

- 平成18年6月、八戸高専、八戸工業大学、八戸大学の先生方が発起人となり発足
(代表:八戸高専 河村准教授)
- 公共交通や自転車の利用促進に向けた活動などにより「脱クルマ」のライフスタイルを提唱
- 活動の一環として、自転車や車椅子を利用したイベントを開催
- 福祉・ユニバーサルデザインなども視野に入れて活動中

「S T i L E」の活動概要



「自転車・車椅子ミーティング」 (H18.7.9)の様子

- ・自転車による八戸市内散策や
車椅子による八戸公園の散策などを実施

「モビリティ・フォーラム」 (H20.2.16)の様子

- ・「自転車ツーキニスト」による講演や
パネルディスカッションなどを実施



「住みやすい八戸市にしてください」

by伊調千春選手（H20.9.9市議会での凱旋報告会）



必ずしも「公共交通を便利にしてください」
という意味ではないと思いますが・・・

ここでふと考える、地方自治におけるE S Tおよび公共交通政策の意義とは・・・

地球温暖化対策という大命題はもちろんのことですが、
地域住民あるいは生活者の視点でものを考えないと、
環境的にも経済的にも「持続」できないのではないかと。

EST的ライフスタイルに足りないもの それは・・・WRESTLING?



平成20年9月10日、八戸市は、アテネ五輪・北京五輪等における女子レスリング競技での偉業を称え、当市出身の伊調千春・馨両選手に対し、新設の「八戸市民栄誉大賞」を授与しました。

Regionally
地域的に（適して）
Environmentally
環境的に（も）
Sustainable
持続可能な
Transport
交通
を目指して
wrestle! wrestle!

wrestle：（困難・問題などと）
取り組む、全力を尽す